

## 漢字によって生ずる誤解は、かえって正解を得やすくする

鯨は魚類ではなく哺乳類である。漢字で学習することによって誤解しやすいのではないか。……と考える方もいらっしゃるかと思います。しかし、そういうことは少しも心配すべきことではありません。

鯨は海に棲み、魚の仲間だと長い間だれからも思われて来ました。だから鯨という字が作られたのです。そこで、子供が「鯨は魚の仲間だ」と言ったら、「よく気が付いたね。えらい」とまず賞めてやるべきものです。

「でも、今では魚の仲間ではない事が解ったんだ。魚は卵を沢山生んで、その卵から出て来た赤ちゃん魚が、赤ちゃんたちだけの力で大きくなる。ところが鯨は、牛や馬と同じように、赤ちゃんを生んで、お母さん鯨がお乳を飲ませて育ててやるんだ。だから、今では、牛や馬と同じ仲間ということになったんだよ」と教えてやれば、鯨という字がきっかけで、正しい認識発展の歴史を理解することができます。

「大根は漢字で“大根”と書くために、ほんとは茎なのに“根”だと誤解されている。これは漢字による弊害だ」とだれかが言ったのを、私はよく

覚えています。しかし、辞典には、たいてい「野菜の一種、白くて大きな根と葉は食用にされる」とあって、茎とはありません。植物学的には茎でも、一般には根だと考えられており、だから“大根”と名付けられた訳です。また、一般には“根”の方が通用しているので、“茎”と言ったら通じません。

しかし、どうしても“茎”であることを教えたいなら、鯨の場合と同じように説明すれば、“茎”の印象がかえって強くなり、“大根”という表記であるがために、かえって忘れられないものになるでしょう。

私も、一度“茎”だということを耳にただけで、そのことをよく覚えていたのも、そのためだと思います。これが“大根”という字でなかったら、とても覚えてはいなかったでしょう。